

第3部 ハンディターミナルに関する調査報告

ハンディターミナルは携帯型の特長を活かし、データの発生時点での収集並びに処理ができることから流通、運輸、製造等のあらゆる業種で活用され、業務の省力化・効率化の促進に貢献してきた。

装置の機能に関しては利用者側から各業務に最適な機器の要求があり、装置開発メーカーも利用者の要求を満たすべく携帯性を追求する中で、高い耐環境性能、大画面液晶、大容量メモリ、近距離無線通信機能、広域無線通信機能、通話機能、NFCリーダライタ機能、RFIDリーダライタ機能等の搭載が進んでいる。

近年ではハンディターミナルに加えて、スマートフォン、タブレット端末等の携帯端末が業務利用されており、またハンディターミナルの業務範囲も広がりつつある。

2017年度（平成29年度）のハンディターミナルの出荷実績は、2016年度（平成28年度）と比較して、国内向け出荷では台数で49%増加し、金額では23%増加した。また、輸出では台数で15%増加し、金額では14%増加した。

各カテゴリ別にみると、スキャナ一体型の国内向け出荷は、台数で61%増加し、金額では33%増加した。輸出は、台数で18%増加し、金額では22%増加した。

標準型＋ノートパッド型（※）の国内向け出荷は、台数で5%減少し、金額では3%減少した。

2017年度出荷実績と比較した2018年度以降4ヵ年の見通しは、スキャナ一体型の国内向け出荷台数は横ばいから微増傾向に推移すると見通した。

標準型＋ノートパッド型（※）の国内向け出荷台数は、微減傾向が続くと見通した。

※公表によって特定企業の実績値が推定される可能性があるため、2017年度の実績および2018年度以降の見通しは、標準型とノートパッド型を合わせて集計する。